

ひよし 日吉ダム防災操作による河川水位低減効果

独立行政法人水資源機構が管理する日吉ダム（南丹市日吉町）では、8月14日からの降雨により増水した河川水の一部をダムへ貯め込む「防災操作」を行いました。

この防災操作により、日吉ダムの下流約25.7kmにある保津橋地点の河川の水位を、ダムが無い場合と比べて約0.95m低減（推定）させました。

淀川水系桂川の日吉ダム流域では、台風第7号の降雨により、8月14日17時から16日10時までの総雨量が199.6mmを記録しました（8月の日吉ダム流域平均降水量：約185mm）。

この降雨による洪水で、ダムへの最大流入量は、毎秒387立方メートルを記録し、この時、約62%（毎秒238立方メートル）の水をダムに貯留する防災操作を実施することで、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

今回の防災操作により、日吉ダムが無い場合と比べ、保津橋地点（亀岡市保津町下中島地先）の河川水位は約0.95メートル低減したものと想定されます。

※今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。



令和5年8月18日

独立行政法人水資源機構 日吉ダム管理所

発表記者クラブ

京都府政記者室

南丹市政記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所 所長代理 桜庭

住所：京都府南丹市日吉町中神子ヶ谷68

電話：0771(72)0171

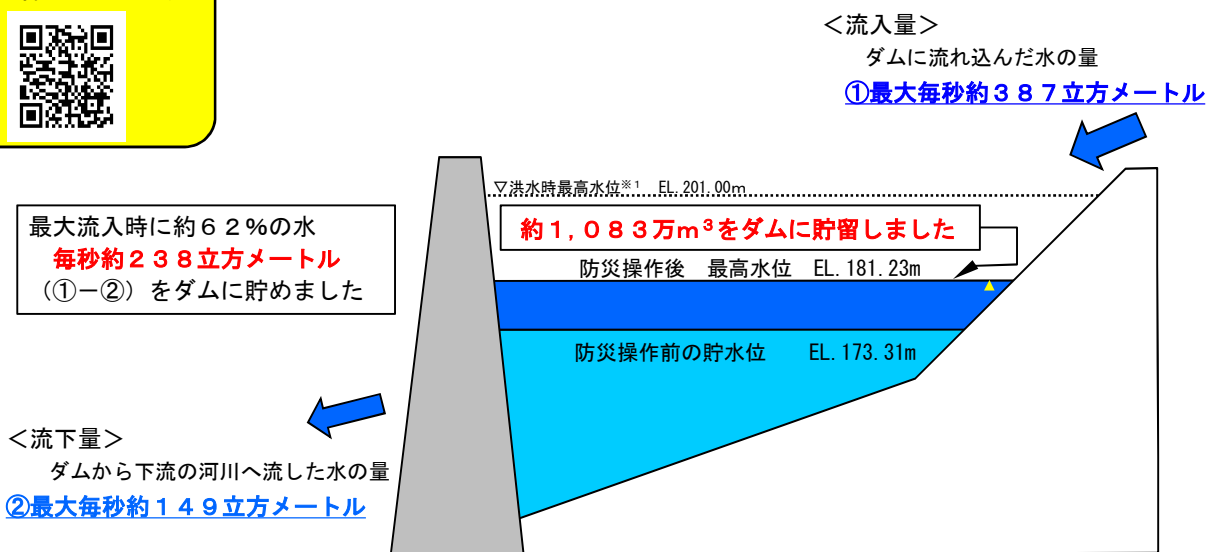
HPアドレス：<https://www.water.go.jp/kansai/hiyoshi>

日吉ダムと保津橋地点の位置図



日吉ダムの防災操作（イメージ図）

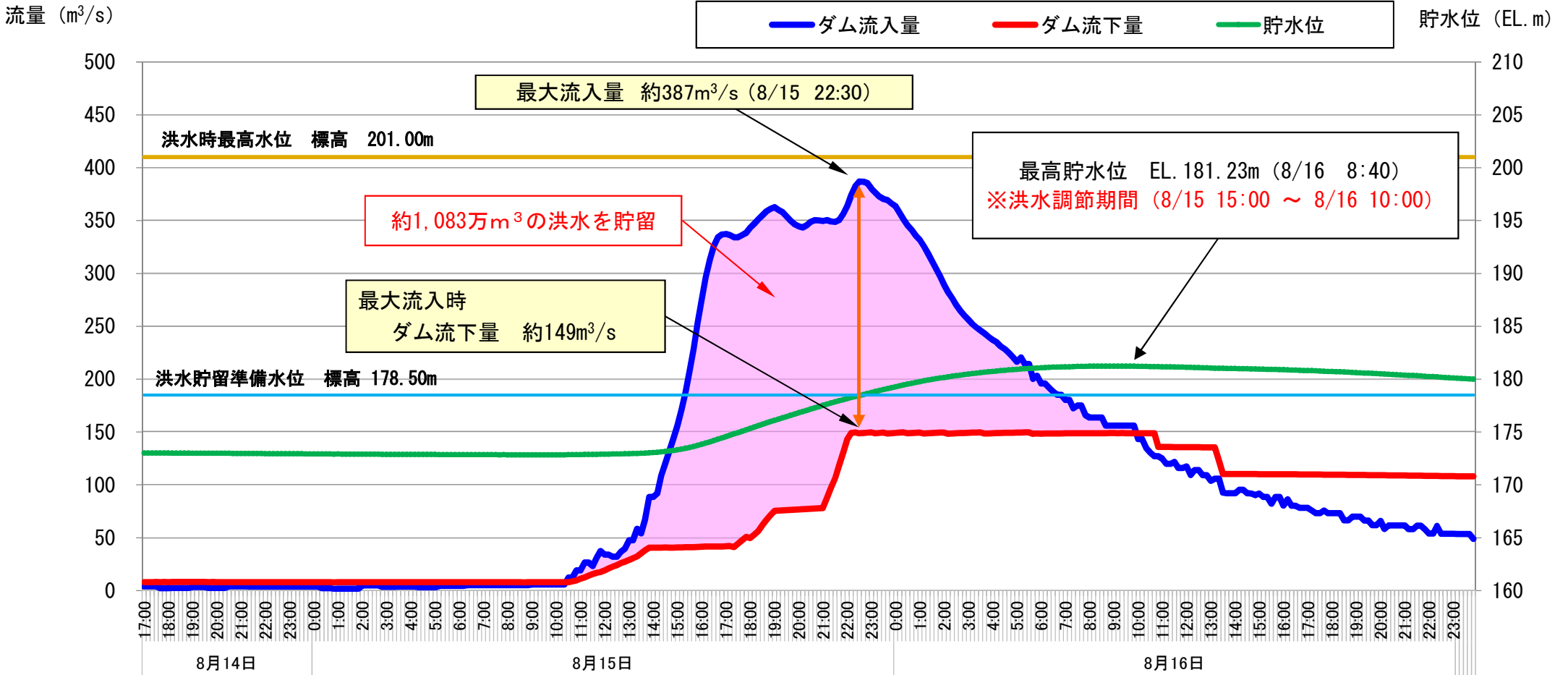
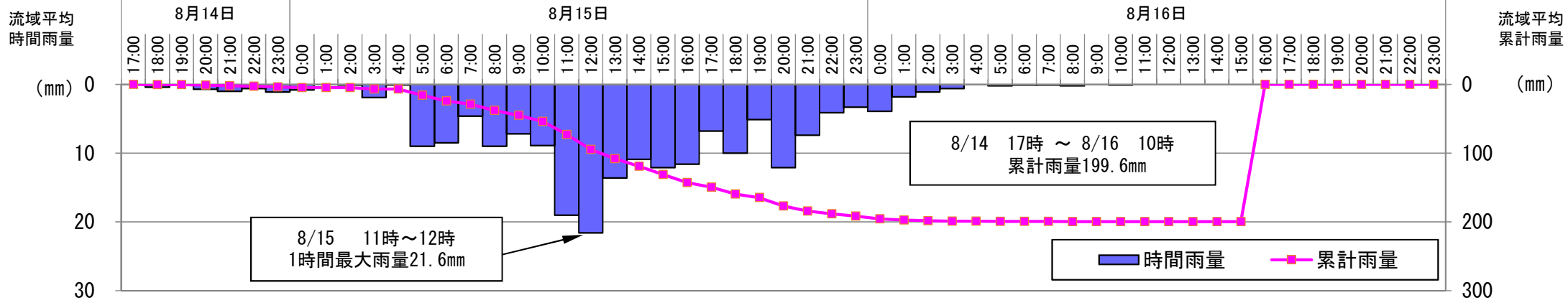
ダム防災操作YouTube動画



※1 洪水時最高水位：洪水時にダムによって一時的に貯留することとした流水の最高水位

※今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

日吉ダム防災操作図



防災操作によるダム下流河川水位低減効果

保津橋地点

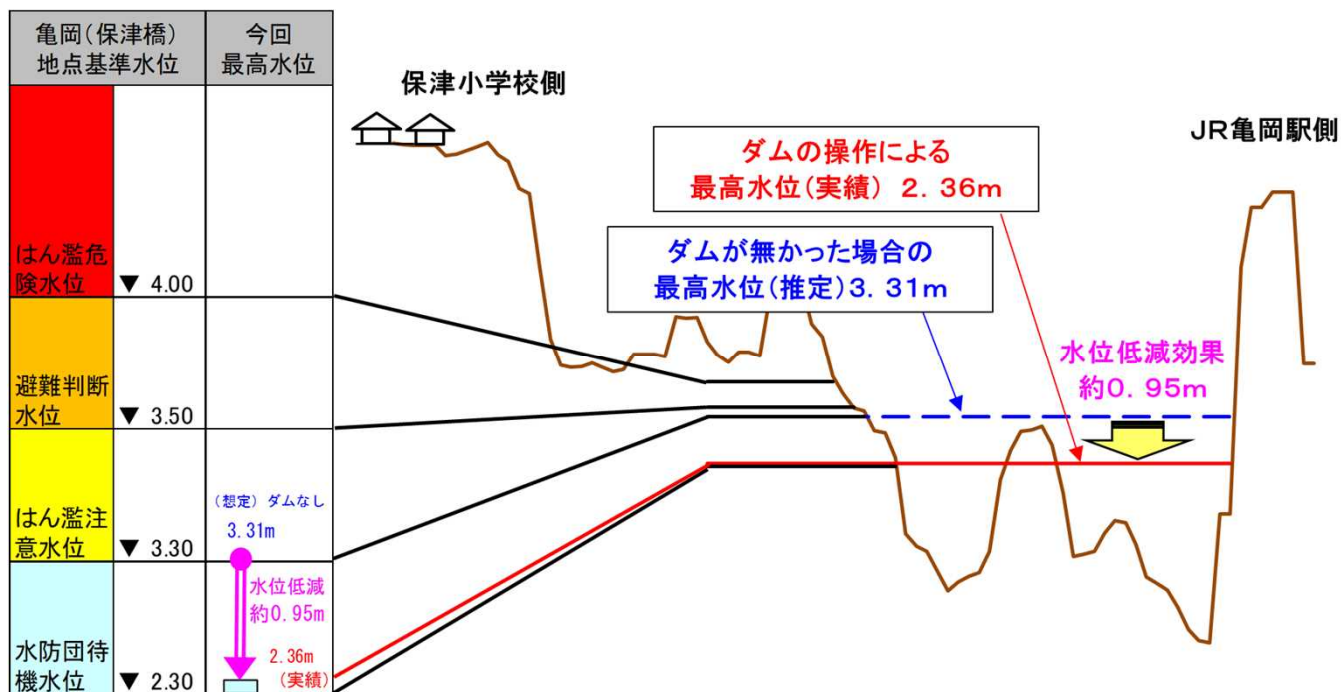
①ダムがなかった場合、推定ではん濫注意水位3.30mを超える
最高水位3.31mまで上昇する見込みでした。

②日吉ダムの防災操作により、はん濫注意水位3.30m以下の
最高水位2.36mまで低減しました。

防災操作によるダム下流河川水位低減効果

①－②＝3.31m－2.36m＝**0.95m低減**

保津橋地点 河川断面図（イメージ図）



河川水位の標記については
 国土交通省HP「洪水等に関する防災情報体系の見直し実施要領」

日吉ダム貯水池状況

2023年8月14日13時撮影 (EL. 173.08m)



洪水調節前の14日13時頃のダム貯水池写真



約8.1mダム水位上昇

(8/14 13時~8/16 10時にかけて)

2023年8月16日10時撮影 (EL. 181.21m)



洪水調節後の16日10時頃のダム貯水池写真